

第 1 回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

開催日時	平成 30 年 7 月 23 日（月） 午前 10 時から正午まで		
開催場所	ゆいわーく茅野 3 階集会室		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
	会議次第		
	1 開会		
	2 挨拶		
	3 協議事項		
事務局	(1)会議の進め方について _____ 説明 _____ 質問・意見なし（※会議の公開について了承される。）		
事務局	(2)茅野市の人口の推移について _____ 説明 _____ 質問・意見なし		
	(3)基本目標ごとの数値目標及び KPI について		
事務局	①基本目標 1 の数値目標及び KPI の現状と今後の見込みについて _____ 説明 _____		
委員	数値目標の「市内事業所就業者数」を企業の規模別で数値を出すことは可能か。また、「諏訪東京理科大学卒業生の市内創業・就業者数」について、公立諏訪東京理科大学は、諏訪 6 市町村で一部事務組合を構成しているので、諏訪地域全体でどれだけ就職した人がいるか、参考として知りたい。		
事務局	市内事業所就業者数は経済センサスの数値を基に集計している。経済センサスが企業の規模別になっていないので数値を出すことは難しいが、その年に就職した数であれば新入社員歓迎大会の数値から出すことが可能。諏訪東京理科大学の卒業生が諏訪地域にどれぐらい就業したかについては、出すことができる。		
委員	公立化したこともあり卒業生が諏訪地域へ就職するような取組が重要になると考えている。諏訪地域を知ってもらうことや、各市町村の商工会議所主催の企業見学会へ参加するよう促している。		
委員	「空き店舗等活用件数」が KPI になっているが、市内に空き店舗はどれぐらいあるか。		

事務局	空き家の数は把握していると思うが、空き店舗についてはいくつあるか把握していない。
委員	空き店舗がいくつあり、いくつの空き店舗が活用されたか分かった方が良いと思うので、可能であれば把握するよう努めてほしい。
事務局	空き家対策と連携を図りながら店舗としてどれほど空いているか状況把握できるか検討させていただきたい。
委員	「水資源を活用した企業の誘致」について、企業が進出してきた場合、水道料等の免除などの支援はあるか。
事務局	市の制度としては、新規事業者であれば開業資金の支援、設備投資による事業開始であれば中小企業振興条例に基づく支援がある。
委員	水は茅野市の素晴らしい資源なので、宣伝をして産業に結び付くように取り組んでほしい。
事務局	水道課では「茅野市のおいしい水」としてペットボトル販売を開始している。こういった取組などを通じて茅野市の水を宣伝していきたい。
事務局	②基本目標 2 の数値目標及び KPI の現状と今後の見込みについて <p style="text-align: center;">————— 説明 —————</p>
委員	全国的に移住者を増やすことに取り組んでいるが、いきなり移住者、二地域居住人者になる訳でないので、3年ぐらい長いスパンで見ること大切だと感じる。最近は関係地域ということが言われているが、たびたびその地域に訪れてもらい、地域と関係を持ってもらうことで移住や二地域居住につながっていくということである。また、関係企業という言葉もあり、茅野市には蓼科などに保養所があり、その保養所を持っている企業の背後には何千人、何万人という社員がいる。これは茅野市ならではのことであり、茅野市が得ることだと思う。保養所は段々となくなっているが、別の形で企業が蓼科等を利用する傾向にあるので、その背後にいる何千人、何万人の社員が、茅野市に何らかの関係を持ってもらい将来的に移住につながっていけばいいと思う。
委員	茅野市地域創生総合戦略の冊子の中のアンケートで、茅野市に不足しているものとして、「買い物など日常生活の便が悪い」「通勤、通学等における交通の便が悪い」があがっている。これについても対策をしていく必要があると思う。
事務局	公共交通の確保として、公共交通活性化協議会で公共交通の利便性を高める検討を行ってきている。最近ショッピングセンターへのバス停の設置や、ダイヤ改正などの利用者が利用しやすい工夫を図っている。通勤、通学については、地形的な問題もあり、特に駅から遠いところの利用者が伸びない傾向にある。毎年乗降者数の調査などを行い、更に利便性が高まるよう協議会

	でも検討しているが、決定的な打開策が見いだせないのが実情である。
委員	この課題がどのように改善したか、例えば渋滞率がどの程度改善したかなど数値化して把握することも必要だと思う。
委員	「イベント来場者数」について、平成 30 年度はイベント内容の見直しとあるが、具体的な策はあるか。
事務局	実現できるかどうかを検討しているところなので、具体的には申し上げられないが、イベントを行うということではなく、全国的に珍しい取組を行い、認知向上を図るということを考えている。
委員	「田舎暮らし楽園信州ちの協議会を通じた移住・定住件数」について、はっきりとした数値をつかんでいるので、住んでみてどうだったか結果を出してみてもどうか。弊社では社員に幸せ指数というのを出力してもらっている。個人ごと差が出るが、その差が抱えている問題や何をもって幸せと感じるか把握でき、対策につながる。これを市でも行えば、数値が良ければ市の PR になり、数値が悪ければ課題の把握になる。
事務局	移住された方に移住体験ツアーの参加者に移住してどうだったか体験談を語ってもらう取組は行っているが、数値化するような取組は行っていない。移住された方に茅野市を移住先に選んだ理由やどういったところが良かったか、また悪かったかを聞いてみることは必要だと思う。幸せ指数については、幸せの定義は難しいが何かしらの指標を設けることを検討したい。
事務局	(4)その他 ————— 資料 3 の説明 —————
	4 その他
委員	この会場に初めて来たが、とても環境が良いと思う。次回以降もここを会場にして欲しい。
事務局	予約が空いていれば、そのようにしたいと思う。
	5 閉会